



Newsletterは、東京YWCAの事業活動を皆様にお伝えするための広報紙です。毎回特集で取り上げる事業を中心に、東京YWCAの今をお届けします。

私たちは、「武力で平和はつくれない」という信念に基づき、安全保障法制に反対します。

特集

ボランティア  
Volunteer

近年、自然災害やオリンピック等の場面でボランティア活動が注目され、その領域も福祉分野に限らず政策提言や市民活動の分野にまで広がっています。今回の特集は、長年「ボランティア団体」として歩んできたYWCAのボランティア、その魅力についてお伝えします。

## “ボランティアが拓く共に生きる社会”

YWCAでは、ボランティアが主体的に、さまざまな面で事業を支えています。温かさ、豊かさ、多様性などその存在がもたらしているものは多くあります。キリスト教を基盤に、人種、性別、障がいの有無を超えて「共に生きる」ことができる社会の実現を私たちは目指しています。YWCAのボランティアとは、その思いを持って自発的に行動する人たちです。

### 歴史を貫く先駆性と創造性

東京YWCAは、ボランティアという言葉が一般化していない時代から、ボランティア養成講座を開催し、相談窓口を設けるなど、その実践と啓発において開拓的な役割を果たしてきました。一方、独

自の事業の中には、ボランティアによる子育て支援の場に参加した母親の「障がいをもつ子どもの居場所がほしい」との声がやがて療育事業に結びついていった例など、ボランティアがきっかけとなって始まったものもあります。

### 一人ひとりの力が発揮される その人自身が評価される

YWCAでは、より良い事業を行うためには、継続した学びが大切だと考えています。語学ボランティアや相談事業など専門性が求められるボランティア同様に、どのボランティアにも各人の特性と能力を伸ばしていくための研修の機会が設けられています。またボランティアで構成

する委員会は、民主的な話し合いと決定のプロセスを通してボランティアを育て、YWCAの理解を深める重要な場でもあります。

組織的には、専門従事者である職員とボランティアが、車の両輪のようにそれぞれが関わるべき領域で、力を出し合い事業を展開していることが特徴の一つです。加えて、幅広い活動分野と様々な活躍の場が用意されています。YWCAのボランティアに関わって「世の中を見る視点、考え方が大きく変わった」という人もいます。今後、さらに多くの方たちにボランティアの仲間に加わってもらえることを願っています。



## ボランティアが活躍しています



### 中国帰国者日本語サロン

高齢になった中国帰国者の日本語学習を支援します。



### 国際語学ボランティアズILV

英語力を生かして、NPO/NGOのため翻訳・通訳をします。



### 「留学生の母親」運動

日本で学ぶ留学生と日本語で話す談話室や、相談室、家庭交流などの活動があります。



### 「いちごの部屋」学習支援

外国にルーツのある子どもたちへの日本語&学習支援です。



### 「あひるの会」水泳

肢体不自由のある人の水泳指導や介助をします。



### 「かめさんくらぶ」水泳

発達に遅れや偏りのある女の子の水泳指導の補助役をします。



### 子ども会 青少年活動

子どもの体験活動プログラムの企画・運営をします。



### 野尻キャンプ

グループ担当・プログラム・キッチンヘルパー・場内整備など様々に活動しています。



### 「シマウマくらぶ」、発達支援プログラム

障がいのある子どもたちがのびのびと自分らしく楽しめるようサポートします。



### 障がい児のきょうだい、家族の支援・親子の自然体験

参加者が心ゆくまで楽しめることを大切に、プログラムの企画・運営をしています。

日常活動以外でも、クリスマスイベントやオープンプログラムなどでボランティアが活躍しています。

## リーダーシップを培うしくみ

### 準備会と振り返り、みんなで課題を徹底共有

子どもクラブもたらうは、国領センターを拠点に、小学生27名で屋外活動、料理、工作、レクリエーションなどの遊びを中心に、年8回の体験活動を行っています。スタッフ1名、大学生、社会人を含めたボランティアの12名で運営しています。当日は中学生・高校生の元メンバーもサブで加わります。

ボランティアは「リーダー」として、子どもたちの身近な存在として過ごします。一人ひとりの子どもについて、どの友だちと接

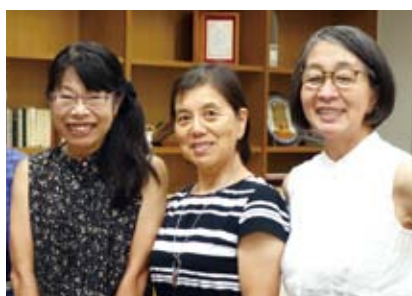
していたか、得意なこと、苦手なこと、可能性など、活動前後のリーダー会で、丁寧に話し合います。その中で、活動の目的である「個性の尊重」「楽しさの共有」に向けて、どう働きかけていくことができるかを考えながら企画をします。

月ごとにチーフ役は交代しながら、皆で役割を分担します。毎回の積み重ねが、子どもたちへの理解や個々との関係を深め、そして支えてくれるチームへの感謝につながっています。



準備会でアイデアを出し合うリーダーたち

リーダーには、教育関係を目指す人、心理を学ぶ人、経済や美術など様々な関心を持つ人がいます。リーダー会の中で疑問を出し合い、活動内容について自身の理解や役割意識を深めることが、チームワークを強める大切な要素となっています。



現在平和と正義委員会、キリスト教基盤研究室でも活動しています(中央が手島さん)

## ボランティアは社会との関わり

### YWCAはチャレンジできる機会のたくさんあるところ

20代の頃、運動不足だから水泳でもと東京YWCAのプールに来たときは、YWCAのことは全く知りませんでした。誘われて肢体不自由者水泳「あひるの会」の水泳ボランティアを始め、野尻キャンプの水

泳のリーダーにもなりました。YWCAは、背中を押してくれる人がいて、色々な役割、経験ができる場所。憲法や社会の問題についても関心を持つと、一緒に活動してくれる仲間がいました。(手島千景さん)

ご関心のある方はどうぞお問い合わせください

財団管理部企画課

☎ 03-3293-5436 ✉ kaiin@tokyo.ywca.or.jp

🏠 <https://www.tokyo.ywca.or.jp/join/volunteer.html>







## 板橋センター敷地内に3階建て「つくい館」完成！

### 地域の方のご遺志が形となって 障がい者の働く場が地域の憩う場に

板橋センターの増改築のためにとの故筑井康夫氏の遺贈の寄付により、3年以上に及ぶ多くの方々の祈りと働きで「つくい館」が竣工。板橋センターの療育事業「キッズガーデン」を巣立った青年たちが引き続き地域で安心して過ごせるように、東京YWCAがNPO法人東京YWCA福祉会に貸与し、9月から同会が、障がいのある方の就労支援の場「Y'sコートゆい」を開所し、障がいのある人が営むレストラン「カフェ JOY」がオープンしました。訪れる人も働く人も共に喜びに溢れる場になることを願っています。



開所式お茶会。地域の期待、感動のエピソードに聞き入りました



つくい館正面。明るく入りやすいカフェです



6/25、武蔵野センターに84名が集いました

## 上映会『不思議なクニの憲法』

年齢も立場も考えも異なる27人が憲法について語る。  
見終わると、自分はどう思う?と考え始めたくなる。

上映会後の懇談会には伊勢崎賢治氏（映画に登場）、松井久子監督がゲスト参加し、自衛隊海外派遣の現状や、日本と米国の関係、暮らしに直結する憲法なのに関心を広げる難しさなど、参加者と熱く語り合いました。映画に出てきた

「普段から12条しましょ!」という言葉は、条文の「国民の不断の努力」を言い換え、憲法を身近に感じるもの。主権者として行動すべく、7月の参院選を前に「まずは選挙。投票を呼びかけよう!」と約して散会しました。

## ライフスタイルを見直すきっかけに

### 健康セミナーで女性の健康づくりをサポート

女性の健康事業部では、運動を中心とした健康づくりとともに、専門家の講義や実技指導のセミナーを実施しています。7

月23日は19名が肥満予防の食生活の講義を受け、ダイエットの基礎知識や糖質制限食の危険性などを学びました。



高齢者は低栄養からの筋量減少に注意を



バザー収益で福島の子どもたちをキャンプに招待

## ● 東日本大震災被災者支援事業

### 東日本大震災で東京近郊に避難している人への支援

現在、都は約6千人の東日本大震災による避難者を受け入れています。7月2日のバザーでは、避難者のための法律相談と福島県職員の情報提供コーナーを設けて支援しました。また、5月にバザー実行委員が都内16区7市役所・社協を訪問し支援の様子や今後について伺いました。来年3月末には住宅支援も終了します。9月には避難者の現状と支援をテーマにシンポジウムを開きました。

